



いよぎん地域経済研究センター



『調査月報IRC Monthly』2018年12月号別冊

年末年始の話題2019

◆当資料は、情報提供を目的として作成したもので、特定の有価証券等の売買の推奨・勧誘、申し込みを目的としたものではありません。◆当資料は、当社が正確かつ信頼性が高いと判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性や信頼性、完全性を保証するものではありません。

◆当資料に基づいて取られた行動の結果について、当社は一切責任を負いません。



亥年によせて

六十干支からみる亥年	1
亥（猪）にまつわる四字熟語・ことわざ	2
亥年をふりかえると・物価でみる亥年の歩み	3
亥年60年の歩み	4

2019年をよむ

日本経済ゆく年・くる年	5
世界経済ゆく年・くる年	6
ドル円・株式相場の見通し	7
県内地場産業の見通し『2019年 どうなる??愛媛の産業』	9
2019年のイベントカレンダー	11
2019年 注目の出来事	12

亥年によせて



六十干支からみる亥年

【干支】は、古代中国（殷）において、順序や番号を表すために用いられた10種の漢字（甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸）の総称である【十干】と、天空を12年で一周する木星の方角を示すために用いられた12の動物（子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥）の総称である【十二支】の組み合わせです。十干と十二支で60通りの組み合わせがあることから【六十干支】とも呼ばれ、一巡すると「還暦」となります。次第に、それぞれの動物の特性にちなんだ迷信や俗信が生まれ、生まれ年による個人の性格判断や物事の吉凶などが占われるようになったようです。

【六十干支】によると、2019年は己亥の年です。十干の己・十二支の亥、それぞれの字の意味を探って、来年がどのような年になるかを占ってみます。

「己」は、物が形を曲げて縮まり隠れた様子や、外に対する内なる自分、すなわちおのれを表しています。「おのれ」はとかく弱いもの。悪い方に流されたり乱れやすかったりします。ゆえに、自らの筋を通して規律を正すことが大切です。

「亥」は木偏をつけると「核」となるように、物事を中心であり、非常に大きなエネルギーを持っています。田畑をめちやくちやに荒らしまわる猪のように、いったん発生するとただでは収まらず、周囲を巻き込んで爆発的な事象を引き起こす力があります。ちなみに、亥年には大地震が多いとも言われています。

よって己亥は、筋を通して規律を正さなければ、災いを招きやすい年とも言えます。60年前の1959年は、当時の皇太子様と美智子様のご成婚に日本中が湧きました。一方、安保闘争や伊勢湾台風の発生など、世の中が荒れる年でもありました。

期せずして、2019年は天皇陛下が退位され、平成が終わりを迎えます。これまでの問題をおさなりにせず、しっかりと向き合い筋道をつけることで、眠っていた正のエネルギーが新時代に爆発することを期待します。

2019年が皆さまにとって良い年になりますよう心からお祈り申し上げます。

〔参考図書〕 干支から見た日本史（毎日新聞社）、干支の活学（プレジデント社）、干支の動物誌（技報堂出版）

亥（猪）にまつわる四字熟語・ことわざ



● 猪突猛进（ちよとつもうしん）

猪が直線的に突進するように、目標物に対してがむしゃらに進むこと。
また、向こう見ずに猛烈な勢いで進むこと。

● 魯魚亥豕（ろぎよがいし）

「魯」と「魚」、「亥」と「豕」の字が似ていて誤りやすいことから、漢字の書き間違いのこと。

◆ いのしし しちだいめ へのこ 猪も七代目には家になる

変わらないように見えても、長い年月の間にはそれなりに変化のあることのとえ（豕＝豚、豚は猪を家畜に改良したもの）。

◆ いのこ だ くさ 家を抱いて臭きを知らず

自分の欠点や醜さは自分ではなかなか気づきにくいことのとえ。

◆ いのこ 家を憎みて臭きを愛す

おおもとを憎んでいるのに、それから派生する事柄には寛大なことから、不合理で一貫しない考えのとえ。

◆ りょうとう へのこ 遼東の家

昔、遼東の豚が頭の白い子を産んだ。珍しいことなのでお上に献上しようとして河東に来ると、その豚はみな白かった。
見聞が狭いため、世間にあるふれていることを知らず、自ら得意になっている様子のとえ。

◆ なじ いのこ かわいい 馴染みでは猪の子も可愛

どのようなものでも近くにいて馴れ親しむと、情が移って愛しく思うようになることのとえ。

◆ いのしし 山より大きな猪は出ぬ

猪が大きいといっても、山より大きいことはない。誇張するにもほどがあるということ。

亥年をふりかえると

年	項目 勤労者世帯 実収入 (円)	消費者物価指数 (2015年 =100)	日本の 総人口 (万人)	愛媛の 総人口 (万人)	日経平均 株価終値 (円)	為替 相場 (円/ドル)
1959(昭34)	36,873	17.6	9,264	152	874.88	360.00
1971(昭46)	124,562	33.9	10,515	142	2,713.74	308.00
1983(昭58)	405,517	82.8	11,954	152	9,893.82	232.00
1995(平7)	570,817	97.6	12,557	151	19,868.15	102.91
2007(平19)	527,129	96.3	12,803	145	15,307.78	113.12
2018(平30)	※533,936	101.6	12,644	135	21,920.46	113.20

出所：総務省、日本銀行、日本経済新聞社

(注)・勤労者世帯実収入：1ヵ月平均、1世帯当たり(※2017年実数値)

・消費者物価指数：年平均、持家の帰属家賃を除く総合(2018年は1~9月の平均値)

・日本の総人口：各年10月1日現在の国勢調査人口または推計人口による総人口
1959年および1971年は沖縄県を除く(2018年は10月の概算値)

・愛媛の総人口：各年10月1日現在の国勢調査人口または推計人口による総人口(2018年は10月の概算値)

・日経平均株価終値：各年末終値(2018年は10月31日終値)

・為替相場：東京インターバンク市場の直物各年末値(2018年は10月31日)

物価でみる亥年の歩み(東京都区部の小売価格)

(単位：円)

年	項目 まぐろ 100g	鶏卵 1パック	りんご (ふじ) 1kg	砂糖 1kg	歯 ブラシ 1本	パーマ 代 1回	家賃 (民営借家) 1ヵ月・ 3.3㎡
1959(昭34)	112	90	34	54	49	533	337
1971(昭46)	159	23	139	144	95	1,710	2,010
1983(昭58)	401	325	487	255	132	5,526	5,051
1995(平7)	477	289	515	224	132	6,878	8,498
2007(平19)	409	211	484	200	139	8,447	9,296
2018(平30)	450	232	603	199	113	8,608	8,563

出所：総務省「小売物価統計調査」 2018年は1~9月平均

亥年60年の歩み

	主な出来事	世相・流行
1959 (昭34)	1月:新国民健康保険法とメートル法の施行 2月:黒部トンネル貫通 4月:皇太子(今上天皇)の結婚パレード 9月:伊勢湾台風発生 12月:日米英仏ソなど12ヵ国、南極条約に調印	首相:岸信介 流行語:私の選んだ人 映画:『任侠中仙道』 歌:『南国土佐を後にして』 (ペギー葉山)
1971 (昭46)	4月:松山市駅前に地下商店街オープン 5月:西ドイツ、外国為替市場を閉鎖 6月:日米、沖縄返還協定に調印 8月:円の変動相場制移行実施 10月:中国、国連復帰	首相:佐藤栄作 流行語:ニアミス、脱サラ 映画:『ある愛の詩』 歌:『わたしの城下町』 (小柳ルミ子)
1983 (昭58)	1月:青函トンネル貫通(世界最長53.9キロ) 2月:老人保健法施行 4月:東京ディズニーランド開園 6月:国鉄事業再建臨時措置法施行 11月:サラ金規制2法施行	首相:中曽根康弘 流行語:義理チョコ 映画:『南極物語』 歌:『天国のキス』 (松田聖子)
1995 (平7)	1月:世界貿易機関(WTO)発足 1月:阪神・淡路大震災発生、 犠牲者は6,000人を超える 3月:オウム真理教による地下鉄サリン事件発生、 死者は13人に 4月:ドル円、79円75銭を記録 4月:愛媛初、国際定期航空路線就航 (アジアナ航空 松山～ソウル便)	首相:村山富市 流行語:がんばろう KOBE 映画:『耳をすませば』 歌:『HELLO』 (福山雅治)
2007 (平19)	2月:日銀、短期政策金利を0.5%に引き上げ 3月:EU50周年首脳会議開催、 「ベルリン宣言」を採択 9月:金融商品取引法施行 10月:郵政民営化 政府出資の株式会社日本郵政グループ発足	首相:安倍晋三、福田康夫 流行語:ハニカミ王子 映画:『HERO』、『恋空』 歌:『千の風になって』 (秋川雅史)



日本経済ゆく年・くる年

18年

西日本豪雨や台風、北海道胆振東部地震など 自然災害の影響が景気を一時的に下押し

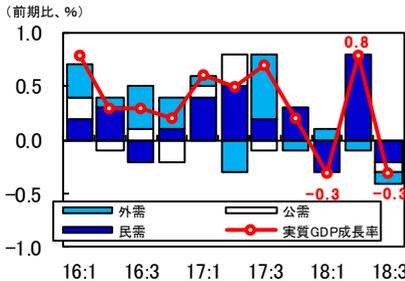
自然災害による供給制約やインバウンド需要の減少が一時的に景気を下押ししたことから7-9月期の実質GDP成長率はマイナスとなった。人手不足を背景に雇用環境は改善が続いたが、災害による消費マインド悪化などもあって個人消費は力強さを欠いた。一方、好調な企業業績を背景に設備投資は増加基調が続き、全体としては緩やかな景気回復が続いた。

19年

10月の消費税率引き上げが個人消費を下押しも 翌年に東京五輪を控え景気腰折れは回避

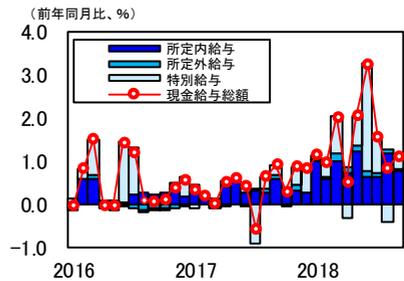
2019年は、10月に予定される消費税率引き上げが個人消費を下押し。軽減税率適用、教育費無償化などが予定されていることや、翌年に東京五輪を控えていることから、景気腰折れは回避されるとの見方だが、19年度(19年4月~20年3月)は18年度からの減速が見込まれている。米中貿易戦争による世界経済の減速懸念、米金利上昇に伴う金融市場の混乱など海外発の景気下振れリスクには注意が必要である。

実質GDPの推移



資料：内閣府「四半期別GDP速報」注：2018年7-9月期は速報値（四半期）

現金給与総額の推移



資料：厚生労働省「毎月勤労統計調査」よりIFC作成

(月次)

世界経済ゆく年・くる年

18
年

トランプ大統領の仕掛ける貿易戦争に振り回された1年 緩やかな拡大が続くも成長ペースはバラつきあり

世界経済は緩やかな拡大が続くも成長ペースにはバラつきがみられた。米国経済は、雇用改善や好調な株価を背景に消費マインドが高水準を維持し、税制改革による設備投資の後押しもあって堅調に推移した。ユーロ圏経済は実質GDPが22四半期連続でプラスとなったが、7－9月期は年率で1%を下回り、成長ペースに鈍化がみられた。イタリアの財政懸念やメルケル独首相の引退表明など欧州経済の先行きに不透明感が強まった。中国経済は政府のデレバレッジ政策や米中貿易戦争を背景に景気が減速。世界中がトランプ大統領の仕掛ける貿易戦争に振り回された1年であった。

19
年

米中貿易戦争は長期化、覇権戦争の様相を帯びる 米国を中心に景気拡大が続く

米国経済は、減税効果が一巡するも内需を中心とした景気拡大が続くと予想。ユーロ圏経済は引き続き緩やかな景気拡大を見込むも、財政悪化懸念が強まるイタリアや英国のEU離脱交渉の行方が気掛かり。中国経済は、米中貿易戦争の影響が景気を下押しするも、政府は18年7月にインフラ投資拡大を表明しており、今後インフラ投資は底入れに向かう見込み。

米国の景気拡大局面は10年目に突入し、戦後2番目の長さとなったが、減税による個人消費や企業収益の押し上げにより、向こう1～2年は景気拡大が続くとみられる。ねじれ議会となったことで、様々な法案成立が難航し、大統領権限で可能な外交や通商政策は進展または激化すると考えられる。IMFは米中貿易戦争で、現状でも中国の成長率は19年に0.56pt（米国は▲0.15pt）下振れ、金融市場に波及すれば1.63pt（米国は▲0.91pt）下振れすると試算しており、引き続き注視が必要である。

ドル円・株式相場の見通し

2018年のドル円相場はドル高・円安基調で推移した。2月に米長期金利の急速な上昇を嫌気し世界連鎖株安が発生、リスク回避の動きが強まり一時104円台まで円高が進んだが、その後はFRBの利上げによる日米金利差拡大もあって114円台までドル高・円安が進んだ。18年9月に発表されたFOMC参加者の政策金利の見通しによれば、19年は3回、20年は1回、21年は0回の利上げを見込んでおり、20年中の利上げ打ち止めが示唆されている。2019年も引き続きドル高・円安基調で推移すると予想するが、米利上げの打ち止めが意識されるにつれ、ドル円の値は徐々に重くなるだろう。

2018年の株式相場は、日米ともに好調な企業業績を反映し堅調に推移した。日経平均株価は10月に1991年以来の高値を更新、その後は米金利上昇とVIX指数(恐怖指数)急騰を受け下落したが足元では持ち直している。2019年は、米国の景気拡大が続き、企業業績は改善、日米ともに株価は堅調に推移すると見込むが、米中貿易戦争や中国景気の動向、米金利上昇などが下振れリスクとなる。

なお、干支にちなんだ相場格言「辰巳天井、午尻下がり、未辛抱、申酉騒ぐ、戌笑い、亥固まる、子は繁栄、丑つまずき、寅千里を走り、卯跳ねる」に従えば、2020年の干支である「子」にかけて堅調な推移が期待される。東京五輪後の景気失速が懸念されているものの、ひとまず2019年の株式相場の好調持続を期待したい。

2019年の主なスケジュール（予定）

	国内		海外
4月	統一地方選挙	2月	タイ総選挙
5月	新天皇の即位、新元号の開始	3月	英国のEU離脱
7月	参議院選挙	4月	インドネシア大統領選挙
10月	消費税率引き上げ予定	10月	ECBドラギ総裁任期満了

ドル円相場 (2017年10月1日~2018年11月13日)



資料：図表4、5は日本銀行、日本経済新聞社の資料を基にIRC作成

日米株式相場 (終値) (2017年10月1日~2018年11月13日)



県内地場産業の見通し



『2019年 どうなる??愛媛の産業』

【製紙】原料費は高止まり続くも紙おむつや板紙は好調を維持する

印刷・情報用紙、新聞紙は需要が減退しており、大手を中心に引き続き家庭紙への切り替えやCNF*など新事業への転換が進む。衛生用紙はインバウンド需要などを背景に拡大、紙おむつも国内外で堅調に推移する見込み。板紙もECの拡大から好調が続くだろう。中国の環境規制などにより、古紙など原料費は高止まりが続くとみられる。(※CNF:セルロースナノファイバー)

【一般機械、金属製品、鉄鋼】米中貿易摩擦の影響に注意が必要

大手製鉄・高炉メーカーの多くが新中期経営計画の初年度で、それに伴うプラント等設備更新案件などの増加が期待される。建設機械や農業機械は、米中貿易摩擦による影響を注視したい。全般的に、製品や取引メーカーによる差異、諸外国の政策・景気動向によって、操業度にばらつきが出る見通し。

【造船】船価上昇のなか新船型の商談機会をうかがう

大手は2～3年程度の手持工事量を有している。鋼材を中心に資機材の値上がりを受けて船価が上昇し、備船市況と新造船価のミスマッチが続いている。そうしたなか、各造船所は2020年から強化される各種の環境規制(SOx、NOx 3次)に適用した新船型の商談機会をうかがっている。

【海運】SOx(硫黄酸化物)規制への対応を迫られる

外航海運は、鉄鉱石や石炭などの荷動きが堅調。一方、新造船供給が抑制されて船腹需給バランスが改善し、ドライバルク(ばら積み船)市況は緩やかに回復している。2020年に始まるSOx規制への対応や、バンカー(船舶燃料油)価格の上昇など、コスト増加が懸念される。

【タオル】産地全体の底上げとメーカーブランド展開が進む

「今治タオル」ブームには落ち着きがみられるが、これまでのブランド戦略によって安定した受注は確保する見通し。今年はタオル工業組合を中心とした産地全体の底上げを図る動きに合わせて、各メーカーが独自戦略を進める動きが強まるだろう。

【海面養殖】マダイの浜値は弱含み、ハマチは底堅い見通し

マダイの浜値は、年間を通して弱含みの展開が見込まれる。さらに、2018年の池入尾数（2019年秋以降出荷分）が多いことから、秋頃からは一段安となる可能性もある。一方ハマチの浜値は、在池尾数の少ない状態が続くそうなことや、輸出も堅調さを維持する見通しであることから、底堅い推移が見込まれる。

【食品加工】原材料価格の高止まりで、経営環境は厳しい状況が続く

蒲鉾、削り節、珍味は、人口減少や食生活の変化などから、需要は縮小傾向が続くと予想される。また、蒲鉾に使われるスリ身や珍味用の小魚、削り節の原料であるカツオは、水揚げ動向に左右されるものの、世界的な仕入競争が激しくなるなか、価格は総じて高止まりが続く見通しである。

【建設】防災・減災対策は継続、松山市中心部の再開発計画に注目

2019年の公共工事請負金額は、西日本豪雨からの復旧・復興に関する工事や大規模施設における防災・減災対策工事などで、前年度を上回ることが予想される。また松山市では松山市駅周辺や一番町、銀天街などの再開発が計画されており、事業の進捗に注目が集まる。好調な観光関連産業を受けて、ホテル等の民間投資の動きも続きそうだ。

【消費】2019年10月予定の消費税率引き上げがブレーキ

節約志向が続く一方、好きなモノにはお金をかけるメリハリ消費が継続。小売各社はメリハリ消費への対応から食品や日用品の価格を下げる一方、高付加価値商品の開発・販売を強化。個人商品は、年前半は緩やかな持ち直しが続くも2019年10月に予定されている消費税率引き上げは相当なブレーキ。また、働き方改革に伴う残業代減少の影響も懸念される。

【観光】道後温泉本館保存修理工事がいよいよスタート

2019年1月からは「道後温泉本館」の7年にわたる保存修理工事が始まり、愛媛の観光が大きな節目を迎える年となる。漫画「火の鳥」をコンテンツにしたビジュアル演出など「見せる工事」が計画されており、観光へのマイナスの影響を緩和できるかが鍵となる。一方4月には東予東部圏域振興イベント「えひめさんさん物語」が始まるため、開催地における観光入込客数の増加が期待される。

2019年のイベントカレンダー

開催日	イベント
3月29日(金)	英国が欧州連合(EU)から離脱予定
4月30日(火)	天皇陛下退位、元号「平成」終了
5月1日(水)	皇太子殿下が天皇陛下に即位、新元号開始
6月6日(木)～7月7日(日)	サッカー 女子ワールドカップ2019 フランス大会開催
6月28日(金)・29日(土)	主要20ヵ国・地域(G20)首脳会議が大阪で開催
9月20日(金)～11月2日(土)	ラグビーワールドカップ2019が日本で開催、アジア初
10月1日(火)	消費税率が8%から10%へ引き上げ

NHK大河ドラマ

いだてん ～東京オリンピック囃～

“オリンピックに初参加した男” かなくりしそろう 金栗四三と

“オリンピックを呼んだ男” たばたまさじ 田畑政治、2人の男の物語

日本のオリンピックは、マラソンの金栗四三と陸上短距離の三島弥彦、たった2人の選手から始まった。1912年に初参加した「ストックホルム大会」で、金栗は日射病で失神、三島も大惨敗。だが、そこから金栗は発奮、日本もスポーツ大国へと成長する。1936年の「ベルリン大会」では、金メダルを量産。田畑の尽力もあって、ついには念願の「東京オリンピック」招致を勝ち取る。だが、時代は戦争へ、夢は幻と消えてしまう…。

【脚本】宮藤官九郎 【音楽】 大友良英

【キャスト】

☆金栗四三…中村勘九郎 ☆田畑政治…阿部サダヲ
 ☆春野スヤ…綾瀬はるか ☆三島弥彦…生田斗真
 ☆嘉納治五郎…役所広司 ☆語り…古今亭志ん生



出所：NHK ホームページ

2019年 注目の出来事

【新元号に！～平成最後の年～】

2019年は平成最後の年となる。天皇の生前退位は、江戸時代以来、実に200年ぶり。皇室典範で皇位の継承は天皇の崩御に限られていたが、現在の今上天皇が健康上の理由などによる退位の意向を2016年8月に示唆されたことから、天皇陛下の退位を一代限りで認める特例法が参院本会議で可決され、2017年6月16日に公布された。

退位は2019年（平成31年）4月30日。5月からは新元号となり、現在の皇太子さまが天皇として即位される。新元号は改元の1ヵ月前に発表されることになっている。国民の理想としてふさわしい良い意味を持ち、漢字2文字で読み書きしやすく、過去の元号に使われていない、また俗用されていないものが選ばれる。

【日本初のG20サミット～労働雇用大臣会合が松山で開催～】

G20サミットは、世界20ヵ国・地域からなる、金融・世界経済に関する首脳会合である。世界金融危機の深刻化を受けて2008年から始まり、以降毎年開催されている。2019年は6月28日、29日に大阪で開催されるが、日本では初めての開催となる。サミットに伴って開かれる閣僚会議のうち、労働雇用大臣会合が、9月1日、2日の2日間の日程で、松山で開催される。県民一体となったおもてなしの機運を醸成し、愛媛の多彩な魅力を発信するほか、「労働・雇用」が本会合のテーマとなるため、“働きやすく暮らしやすい”愛媛をPRするチャンスになると期待される。

G20参加国

G7（仏、米、英、独、日、伊、加の7ヵ国およびEU）、アルゼンチン、豪、ブラジル、中、印、インドネシア、メキシコ、韓、露、サウジアラビア、南アフリカ、トルコ





2019 年が皆さまにとって、
笑いの絶えない幸多き年になりますように。